

Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2014年1月1日～12月31日

2014年度



2015年05月31日 発行



ごあいさつ 3

BAJのめざすもの、プログラム 3

ミャンマーでの活動 4

I ラカイン州地域開発事業	5
(1) 車両など機械類の整備	
(2) メカニカルトレーニング	
(3) 学校建設	
II 中央乾燥地域の生活用水供給事業	7
(1) 新規深井戸建設	
(2) 深井戸修繕	
(3) 井戸の維持管理研修	
(4) 「小さな図書室」の設置	
III 南東国境地域給水事業	8
(1) 給水施設設置	
(2) GP調査(地質調査)	
(3) 給水委員会強化研修	
(4) 給水施設の維持管理講習・衛生知識講習の実施	
IV カレン州技術訓練学校運営事業	10
(1) 訓練生の選抜	
(2) 技術訓練	
(3) 学校の運営	
V ヤンゴン事務所	11
(1) ミャンマー事業のレポート	
(2) エーヤワディーデルタ災害リスク低減事業	

ベトナムでの活動 13

I フェ市生活改善事業	14
(1) 環境教育 事業	
(2) 生活改善 事業	
(3) バイオガスダイジェスターの設置と農畜産業経営強化事業	
(4) 農畜産物の販路促進	

東京本部の活動 17

I 資金調達	18
(1) 助成金や補助金、寄付・会費など	
(2) 募金キャンペーン	
(3) 東京事業	
II 広報活動	19
(1) 情報の発信	
(2) 海外の活動現地視察	
III 海外事業支援	21
(1) 資機材の調達	
(2) 専門家派遣	

会計報告 22

ごあいさつ

2014年度のBAJ年次報告書をお届けいたします。これも皆様からご支援の賜物と、心から感謝を申し上げます。

BAJがもっとも大きな現場を抱えて活動を進めているミャンマーでは、各国からの援助を受け始めたミャンマー政府自らが積極的に自国の開発を自力で進めるようになってきています。BAJはこれまでミャンマーの活動現場でインフラ整備を進めてきました。しかし彼ら自身が地方のインフラ整備を進めようとしているなかで、BAJは今後、どのような活動でミャンマーの支援を続けていくのか、BAJのなかで検討を進めてきています。

NGOとしてふさわしい活動としては、これから発展しようとするミャンマーで一番不足している人材の育成であると考えています。そのことも含めて、現在バアンで進めているBAJ技術訓練学校の事業については、ぜひ良い成果を出していきたいと考えています。

ベトナムでは、都市近郊の農家は経営の苦しい農業との兼ね合いで、受け継いできた農地を売ってしまうために宅地化が進み、伝統的な作物がどんどん姿を消しています。BAJでは農家と連携して、都市住民と農業生産者を結ぶ循環型の農業経営を模索してきました。都市部で出た生ごみを集めて養豚の飼料に活用し、豚糞を集めてバイガスダイジェスターにより燃料や液肥として活用する事業です。2014年末には、農家が収穫した新鮮で安全な野菜類や果物、鶏卵などを直接販売する「直売所」を、勤労者が買い物による町の一角にオープンしました。

まだまだ課題は山積みですが、農家グループと話し合いをしながら、よりよい仕組みを検討し、さらに収入向上につなげていこうと健闘しています。

どの活動も、大きな目標は人材の発掘と育成です。これからもBAJの活動に注目していただき、ご支援ご協力をお願い申し上げます。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
理事長 根本 悦子

BAJの4つの使命

技術習得や能力強化の機会を提供します
収入向上を支援します
地域発展のための環境基盤を整備します
環境を守り啓発を進めます

10のプログラム

- 1 学ぶ機会に恵まれない青年を対象に技術訓練と就労支援
- 2 住民参加のOJTによるインフラ整備
- 3 井戸建設と井戸修繕で生活用水を確保
- 4 子どもたちが安心して学べる学校の建設
- 5 衛生教育や識字教育で生活改善
- 6 子どもたちを対象に環境教育
- 7 貧困農家の収入向上支援
- 8 都市と農村をつなぐ循環型農業の実践
- 9 減災教育による防災への意識向上
- 10 古着や古本などのリサイクル



海外支援活動事業

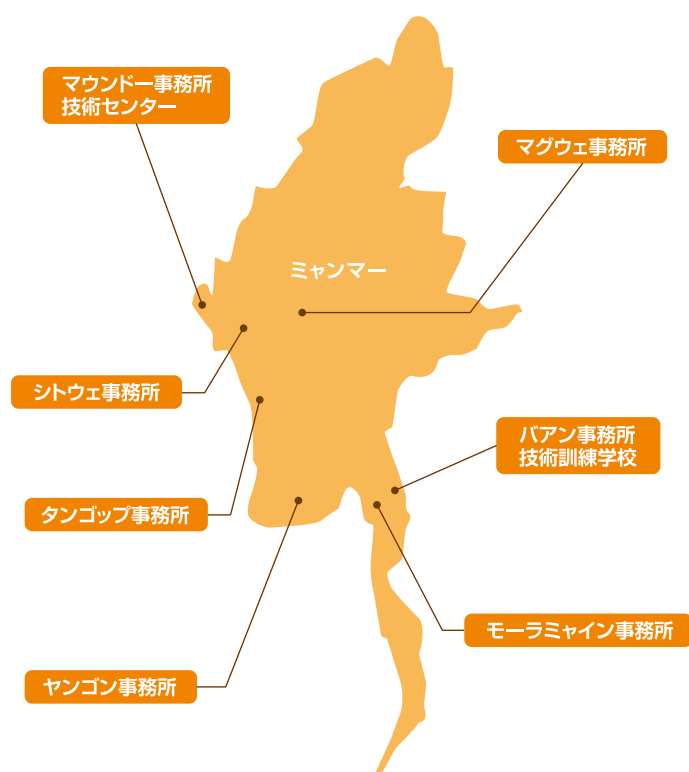
ミャンマーでの活動

1991年から92年にかけてバングラデシュに流出したラカイン州北部に居住するモスリム系住民約23万人の帰還について、BAJは国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の事業実施団体として帰還事業に加わりました。また1999年からは、ミャンマー政府の要請で、マンダレー管区の中央乾燥地域で生活用水供給事業を開始し、これまでに130本の深井戸を掘削建設してきました。2004年にはUNHCRの要請で、タイ国境の南東国境地域でやはり水供給事業を開始し、こちらは地域に合わせた様々なタイプの井戸約400本を設置しています。2013年12月からは、カレン州のパアンにBAJ技術訓練学校を開校し、学ぶ機会に恵まれなかった若者を対象に技術訓練コースを開始し、人材育成を進めています。

現在10か国が加盟する東南アジア諸国連合（ASEAN）では、2014年5月、初めてミャンマーがASEAN首脳会議の議長国を務めました。このことはASEANの重要な一員として各国が認めたと考えることもできます。

現在ミャンマーでは、さまざまな規制緩和や法制度の整備が進められ、同時に各国からの投資が活発化しています。日本政府は8月に岸田外務大臣、11月に安倍首相がミャンマーを訪問し、通信網改善のための支援をはじめ多額の円借款供与を表明し、ミャンマー発展のための支援継続を約束しました。

一方で、少数民族問題は解決の兆しが見られず、3月にはラカイン州で国際援助機関を標的にした投石や不法侵入による破壊行為があり、BAJの駐在員も避難を余儀なくされました。BAJの活動地外であるカチン州やシャン州でも暴動が散発しており、ラカイン州で約14万人、カチンとシャンではそれぞれ約10万人以上の国内避難民が出ている状況です。



I ラカイン州北部の地域開発事業

2012年に起きた民族衝突の影響がまだ残っており、残念ながら不安定な治安状況が続いています。そうした環境のなかで、政府はこの地域に対して電化や井戸建設など、積極的にインフラ整備を進めているようにみえます。一方、23年前に起きた難民流出を機にこの地域にUNHCRを中心としたさまざまな国際NGOが入って活動を進めてきました。とくにモスリム系住民が90%を超えるマウンドーでBAJは、1995年から難民を村に戻すため、国際機関やINGOの車両整備や橋梁建設などインフラ整備を行い、さらに地域の若者を対象にしたさまざまな技術訓練コースを開始し、人材育成を進めてきました。また2013年からは、州都であるシトウェを中心に、5年間で100校を目指して学校建設事業を進めています。

1 車両など機械類の整備

【資金:UNHCR】

UNHCRをはじめ、この地域で活動する国際NGOやミャンマー政府の所有する車両、発電機、船外機などの修理を通して、各団体が行う活動の後方支援を実施しています。このほか、引き続き燃料のろ過サービスも実施しました。



車両整備では塗装も行います

2 メカニカルトレーニング

【資金:UNHCR】

地域の若者を対象に、自動2輪修理コース、自動車整備コース、溶接コースを実施し、40名がコースを受けました。また、UNHCRが開始した農機具のレンタル事業の開始に際して、トラクターやポンプなどのメンテナンスの研修を行いました。



研修では座学と実習を行います

3 学校建設

【資金:日本財団】



高床式の校舎は洪水の危険がある地域

2013年9月から開始したこの事業では、現場監督、左官や大工などの熟練労働者の指導を受けながら、各現場に地域の若者約10名がOJT(オンザジョブトレーニング)で建設に参加し、技術を



校舎は鉄筋の堅牢な造りです

習得しました。OJTのメンバー構成は、地域の状況が許す限りモスリムとラカイン(仏教徒)の混成チームです。また若者のなかの数名は、3年目の建設にスタッフとして参加する機会を得ました。学校建設事業2年次の建設作業進捗状況は以下の通りです(12月31日時点)。

No	郡名	地域名	サイズ・建設タイプ	施工開始日
1	タンゴック	キンタウン村	90fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.9.1
2	タンゴック	タンビューヤーカイン村	40fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.9.2
3	タンドウエ	グエチャウン村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.9.9
4	グフ	アレチャウン村	40fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.9.9
5	グフ	ラウンチョ村	60fx30f・避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2013.10.22
6	シットウエ	ピャーレイチャウン村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.9.11
7	マウンダー	ピャーター村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.10.8
8	グフ	タービューチャウン村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2013.12.16
9	マウンダー	アウンセイコン村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.1.1
10	タンドウエ	シンガウン村	100X30f・鉄筋コンクリート構造	2014.1.11
11	シットウエ	ガンゴーション村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.1.12
12	タンゴック	ザニ村	50fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.1.16
13	タンドウエ	ゴンミンジャウン村	40fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.2.22
14	タンゴック	ナツカン村	80fx30f・避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2014.3.1
15	タンゴック	カンシーク村	60fx30f・避難所機能付き 鉄筋コンクリート構造	2014.4.19
16	シットウエ	チャウタンジー村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.4.29
17	マウンダー	第4区	60fx30f 2階建・鉄筋コンクリート構造	2014.4.28
18	ミンピャ	ゼハウンバイン村	90fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.5.7
19	ラティダン	アングモコンタン村	60fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.5.26
20	タンゴック	アーシェイベイ村	20fx30f・鉄筋コンクリート構造	2014.5.18



土地が狭いケースでは二階建てです



盛大な引渡式で子どもたちの演技



完成した校舎、このタイプの校舎では洪水時に屋上に退避できます

II 中央乾燥地域の生活用水供給事業

ミャンマー中央部は、雨季に集中する年間降雨量が600～700ミリという乾燥地域です。ザガイン、マグウェ、マンダレーの3つの行政区があり、それぞれの管区には郡と呼ばれる行政単位があり、全部で85郡、15,802の村があります。

1988年に起きた体制に関わる事件をきっかけに、国際機関や海外からの援助がすべてストップし、さらに2000年には所轄官庁の改変があり、技術者や機械類を適切に移行できなかったという事情もあり、この地域の村落給水状況は芳しいものではありませんでした。BAJは中央政府からの要請で1999年にカウンターパートとなる国境省開発局(DDA)と覚書を交わして水供給事業を開始し、12月にはチュンポーカン村に第1号となる井戸を完成させました。

この地域での井戸掘削の難しさは、帯水層まで200～300メートルも掘削しなければならないことです。そのためには大型の掘削機械と、掘削前の地下水調査が必要になります。さらに掘削機械を稼働させるための燃料と、掘削した井戸孔をケーシングする資材など費用がかかるため、失敗は許されません。あらかじめ地下水調査を行い、帯水層の位置を確かめてから掘削作業に入ることになります。BAJはこの地域でこれまでに125本の深井戸と、400本以上の深井戸の修繕を進めてきました。

1 新規深井戸建設

【資金:プラン・インターナショナル、渡部隆夫様、外務省NGO連携無償資金】

2014年は、新規深井戸を5本を掘削設置しました。掘削建設した新規深井戸の進捗状況は以下の通りです。

No	村名	郡名	寄付者	掘削		給水槽 ガロン
				開始	終了	
121	クワンバラ村	ニャンウー郡	プラン	3/13	4/12	3,000
122	チャウンバードウ村	チャウ郡	渡部隆夫様	4/29	6/14	5,000
123	ベイピン村	チャウ郡	外務省	7/17	8/2	5,000
124	テルピンサカン村	イエナジャウ郡	外務省	9/4	10/4	3,000
125	サンゴン村	ナマウ郡	外務省	12/25	2/1	5,000

No.121の井戸は過去に水質が原因で廃棄された経緯があったので、掘削地の選定や建材の材質、揚水から貯水への方法など最新の注意を払って完成させました。No.124の井戸では住民からパイプライン敷設の要望があったので効果型貯水タンクを設置し、パイプライン敷設は村側としました。この井戸建設はたびたび逸水に見舞われたが、無事完成することができました。



掘削後、エアコンプレッサーを使用し井戸孔内洗浄を実施します

2 深井戸修繕

【資金:外務省NGO連携無償資金協力】

修繕は新規に設置するよりもはるかに安いいため、BAJではボアホールカメラを導入して既存井戸の修繕を進めてきました。2014年は75本の井戸修繕を計画し、事業年度の2015年3月末にすべて完了しています。この地域の大半の井戸は建設から20～30年経過しており、ポンプ部品の老朽化による破損などで揚水量の低下や、ポンプ操作ミスによる破損のケースがありました。また井戸孔内をエアコンプレッサーで洗浄するだけで回復する場合があります。

修繕する井戸は可能な限りボアホールカメラを使って孔内の撮影を行い、井戸データの更新と、井戸の不具合を確認します。修繕の事業は、BAJ卒業生の民間修繕チームと協力して進めました。



修繕活動においても、井戸孔内洗浄はとても有効です

3 井戸の維持管理研修

【資金:プラン・インターナショナル、外務省NGO連携無償資金協力】

井戸が完成して村に引き渡したあとは、村に井戸の維持管理をお願いします。村の「水管理委員会」を対象に、日常的なポンプのメンテナンスなどハードな面と、水の価格を決めて運営するソフト面の両方を進めていく必要があります。また水管理委員やポンプ



ポンプを動かすエンジンのメンテナンスについて、実物を使ってトレーニングします

操作者を対象にワークショップを開催し、ポンプ操作の基本的なトレーニングや、運営のための経験交流の場を提供しています。さらに小学校の教室を借りて衛生ワークショップを行い、講話とクイズで衛生知識の普及を行いました。



村の人たちからの様々な協力を得ながら活動を進めています



自分たちの村の水管理委員会の状況を発表しています
他村の水管理委員との情報共有と経験交流が目的です

4 「小さな図書室」の設置

【資金:寄付、自己資金】

BAJ設立20周年を記念に開始した「小さな図書室」事業は、支援者の寄付を資金に、子ども向けの図書およそ250冊を専用の書棚にセットして小学校に寄贈するというプログラムです。皆様からのご支援で、2013年に4校、2014年に5校、あわせて11校に図書をプレゼントすることができました。引渡式では、児

童と教師を対象に、図書の貸し出しなどについてのワークショップを実施して、長く楽しんでもらえるようにしています。

2015年は、東京おもちゃ美術館と協働で「Book & Toy」というプログラムを準備中です。

Ⅲ 南東国境地域給水事業

【資金:UNHCR】

南東国境地域は、モン州、タニンダリー州、カレン州をふくむ、タイと国境を接した南北に延びた地域です。少数民族との紛争があった地域でもあり、これまで外国人が入ることが難しい地域でもありました。2004年、タイ側にあるビルマ人難民キャンプからの帰還が始まるという計画があがり、帰還民がこの地域で生活できるようにと、いち早くUNHCRがこの地域に水供給施設の建設を計画し、BAJは事業実施団体としてこの地域の水供給の事業を開始しました。雨季には豊富な水量に恵まれています。乾季は全く水がないという地域です。

BAJはこれまでに450本以上のさまざまなタイプの水供給施設を村々に設置してきました。

2014年は、16か村に新規給水施設の建設、4か村で既存井戸の修繕、村人で組織された給水委員会の強化研修を3回実施しました。これにより16か村の裨益者8,421人は、1日当たり平均で28リットルの安全な水を年間を通して得られるようになりました。

この地域でUNHCRとNATARA(国境地域民族省)が選定する給水事業対象村は、紛争地帯となった場所で、難民帰還の可能性が高い村が多くなっています。村は山間部など僻地にあることが多く、資機材の運搬やスタッフの移動に時間がかかるため、年内に予定していた作業を終えることができませんでした。また給水施設の維持管理についても、村人の理解を深めるための十分な時間をとることができず、今後の課題となりました。

1 給水施設設置

カレン州9か村、モン州7か村で給水施設を設置しました。内訳は、解放井戸8本(うち2本は太陽光発電による揚水)、管井戸5本、重力流パイプシステム3か所でした。



貯水プールができたので乾季も安心です

2 GP調査(地質調査)

カレン州とモン州の政府機関の要請と、UNHCR事業のための調査をあわせ、合計78か所で地質調査とデータ解析を行い、給水システムの選択に役立てました。



南東国境のスタッフと事業についての話し合いです

3 給水委員会強化研修

2014年の新しい試みとして、モーラマイン、パアン、タンダウの3か所で、給水委員会強化研修を実施しました。給水委員会のマネジメントが成功している村、していない村、あわせて10か村を選定し、村の給水委員会からの参加者同士で、課題と改善策の情報共有を行いました。合計で99名が参加しました。



村の若者たちを対象に行った講習会は好評でした

4 給水施設の維持管理講習・衛生知識講習の実施

給水施設を設置した16か村を対象に、維持管理講習ではエンジンやポンプの操作とメンテナンスについて解説し、あわせて給水委員会の役割について考えてもらいました。また衛生知識の講習では、各村から若者20名に参加してもらい、衛生講習を行いました。講習の終了後は、村で衛生知識の定着をモニターする若者5名を選抜し、さらに内容を深めた講習を実施してモニタリングにあたってもらいました。

IV カレン州技術訓練学校運営事業

【資金:外務省NGO連携無償資金協力】

タイと国境を接する地域で、人口は約150万人。ミャンマー独立直後の1949年からカレン民族同盟(KNU)は独立闘争を開始し、2012年1月の停戦合意まで国軍との紛争を継続しました。現在は、紛争によって発生した国内避難民約23万人の再定住と、紛争によって立ち遅れているインフラ整備が大きな課題となっています。

BAJは、学ぶ機会に恵まれてこなかった若者を対象に、カレン州の州都であるパアンで技術訓練学校の運営事業を計画し、カレン州から約6ヘクタールの土地提供を受け、外務省のNGO連携無償資金協力の3年間継続案件として資金を得て、2013年12月にBAJパアン技術訓練学校を開校しました。

2014年は、技術訓練として建設科第1期、第2期を実施し、各3コース30名、計60名を受入れました。うち10名が脱落、50名が修了し、そのうち37名(74%)が就労の機会を得ています。

1 訓練生の選抜

訓練生の選抜は、コース運営上もっとも大きな課題であると考えます。ただし初年度の2014年第1期は選抜時間を十分取れず、カウンターパートの国境省教育訓練局(DET)に選抜を依頼しました。そのため2期については、DET、カレン州政府、BAJで学生

選抜委員会を組織し、明確な選抜基準にそって選抜しました。志望動機、技術習得に対する熱意、学歴、経験、家庭環境(経済状況)、将来の希望など、面接により各項目を採点し、何よりも学ぶ意欲に着目して選考しました。

2 技術訓練

①建設科第1期、第2期

理論と実習による技術訓練とし、ミャンマーで一般的な木造建築、レンガ建築、RCC建築(鉄筋コンクリート)の基本的な施工技術の習得をめざしました。カリキュラムの内容は、木工、石工、鉄筋加工の3つの科目です。訓練生は座学で理論を学び、実習として訓練学校の建物の一部を、オンザジョブで建設しました。



建設コースの木工でノミを使っています

訓練の終了後は、中間試験と最終試験に合格した訓練生には「Achievement」修了証書、不合格者には「Completion」の修了証書を授与しました。第1期卒業生22名のうち90%(20名)、第2期卒業生28名のうち60%(17名)が卒業後に雇用先を得ています。

BAJの就労支援として、BAJがラカイン州で実施している小学校建設事業、カレン州・モン州で実施している井戸建設事業に就職斡旋を行い、卒業生50名のうち14名が就労しました。



プロの指導のもと、レンガ積みの実習です

②建設科第3期、自動車整備課第1期、電氣化第1期

2014年12月からは、1年次に建設した建物を活用して上記の訓練科を開始しています。

③専門家の派遣

訓練生のさらなる技術力向上を図るため、日本から専門家を派遣して訓練生およびインストラクターへの指導や、カリキュラム方針への助言、「教え方」の指導などを受けました。2014年は、建築と自動車整備について短期に派遣しました。

3 学校の運営

運営上の方針決定や課題解決に対しては、DETからの出向者を入れた学校運営委員会で検討して進めます。学校は全寮制で、生活必需品や学習用品を支給し、学習に専念できる環境を用意しました。また共同生活のための校則を整備して規律を確保しています。2014年は、前期・後期2回の運営会議を開いて、振り返りと課題の洗い出しを行い、改善策につなげています。

BAJは技術訓練学校を継続的に運営していくための資金の確保などふくめて、訓練コースに関連するヤンゴン市内の日系企業を訪問し、卒業生の雇用先の開拓を進めています。



卒業式で研修生も先生も全員集合



カレン州知事や駐ミャンマー日本大使館の参事官にご臨席いただき盛大な開校式を行いました
子どもたちはカレン族の衣装を着ています

V ヤンゴン事務所

1 ミャンマー事業のサポート

BAJミャンマーの事業所は現在7か所あります。各現場事務所のスタッフの移動や、日本からの訪問者を受け入れるのに「入域許可」が必要となる場合や、入札過程をふんだ物資の調達とその連絡、ドナーとの調整、カウンターパートとの調整、各現場からあがってくる会計のとりまとめなど、申請や更新、許可などに係る事

務作業などを適宜進めています。また特別のミッションを持つ視察グループや訪問者、専門家、インターンなどの受入れについて、東京事務所と連携しながら行っています。

BAJは、ミャンマー全体で現地スタッフを150名ほど抱えており、彼らへの研修を随時行ってスキルアップを図っています。

2 エーヤワディーデルタ災害リスク低減事業

【資金:国際航業株】

「沿岸部防災機能強化のためのマングローブ植林計画」のなかの「防災訓練プログラム」をBAJが実施団体として受けました。2008年のサイクロン・ナルギスの被災以降、エーヤワディー地域の防災強化を



苗床で1年間育てたマングローブを植えていきます

進めており、今回は社会福祉省復興救済局、森林局、ロイヤルツリー社と事業内容を共有して協力体制で取り組んでいます。

2014年11月に実施した防災基礎研修では、森林局員35名と植林労働者の管理責任のあるロイヤルツリー社職員20名を対象に、防災の基礎知識と同時に森林監視塔兼避難シェルターを避難先とした防災訓練を実施しました。学童・生徒を中心に92名の村落住民も研修を受け、防災意識を高めることができました。

また、社会福祉省救済復興局の職員を技術支援要員として登用したので、環境保全・林業省森林局との行政連携ができ、協働して防災にあたる素地ができました。

11月に実施した防災基礎研修の内容は以下の通りです。

No	期間	対象者	場所	内容
1	11/1~3	森林局20名	森林局事務所ボガレー支部	防災基礎研修
2	11/7~9	森林局15名	森林局事務所ボガレー支部	防災基礎研修
3	11/13~15	ロイヤルツリー社20名	ベースキャンプ	防災基礎研修
4	11/17~19	生徒・PTA 30名	Tan Yaw Chaung村	学童向け防災研修
5	11/21~23	生徒・PTA 32名	Gway Chaung Gyi村	学童向け防災研修
6	11/25~27	生徒・PTA 30名	Kyein Chaung Gyi村	学童向け防災研修



2014年3月にヤンゴンで実施したミャンマー年次総会の全員集合写真



海外支援活動事業

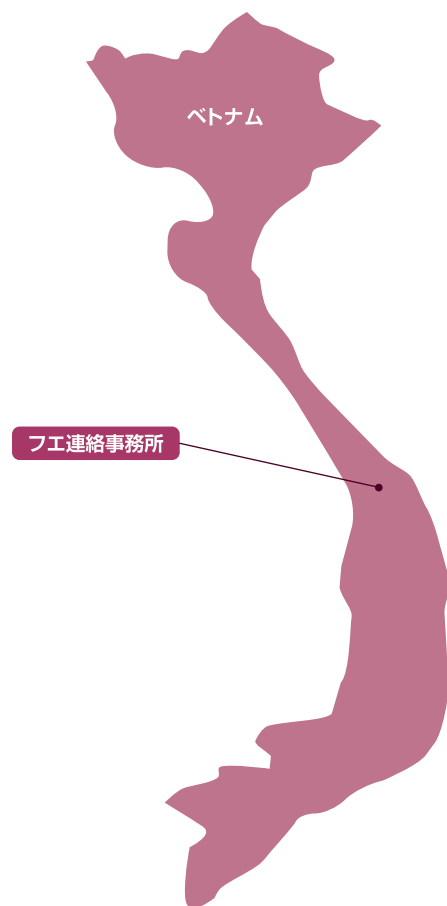
ベトナムでの活動

1982年、ベトナム戦争で激戦地となったクーチに生活支援用の発電機を贈ったことをきっかけに、ホーチミンの障害児学校支援、都市部のごみ調査、日本のごみ収集車の寄贈など行ってきました。2002年になってBAJとしてホーチミン駐在連絡員を置いて、ベトナムでの本格的な活動を開始しました。

2010年、活動の本拠地であったホーチミン市第2区アンカイン地区の再開発により住民移転が本格化し、子どもたちを中心にごみ収集や未就学児童のための補習教室などの活動ができなくなり、活動の中心をトゥアティエンフエ省の水上生活の住民が多いフエ市フービン地区に移し、子どもたちへの環境教育と同時に、フエ市近郊の貧困農家を対象に収入向上のための活動を開始しました。

ベトナム政府は近年さまざまな行政改革を進めています。2014年9月、トゥアティエンフエ省外務局をはじめとする関連部署がBAJ事務所を訪れ、NGOがフエで活動するうえで必要な各種の手続きについての確認が行われました。ここ数年の傾向で、NGOの活動についてさまざまな規定が整備されるにつれ、NGO側が準備すべき書類も多岐にわたり、煩雑な事務作業が発生するようになりました。さらに、外国の資金が関係するセミナーの開催や、外国人がNGOの活動に参加する場合も事前に複雑な手続

が必要であることなどの通達を受けています。BAJは必要な手続きについては手順にそって進めていきます。



I フエ市生活改善事業

1 環境教育事業

【資金：(株)LIXIL、エコポイント、キャノン(株)、輝けアジアの子ども基金】

① トゥイスワン地区小学校での環境学習活動



のびのびと学ぶ子どもたち、「環境活動大好き!」とってくれます

同地区のトゥイスワン小学校では、「生きる力を伸ばすための活動」の時間に、小学校1年～3年の合計9クラスの児童、計476名がBAJの環境学習の授業に参加しました。秋からの新学期は、新3、4年生を対象を絞り、学習を続けています。

テキストはLIXILが作成した「水について考え、調べてみよう」「トイレについて考えてみよう」や、BAJ作成の環境テキストを使って学習を進めました。

トゥイスワン小学校での環境学習内容は以下の通りです。

	1年1組～3組	2年1組～3組	3年1組～3組
1月	川の水の汚染と水の節約	井戸水と川の水の利用	川の汚染原因/校外活動：地域の小川・池・井戸の水質調べ
2月	植物のつくり、いろいろな木の名前	生活排水はどこに	地域の小川・池の水質調査結果のまとめ/ワークショップの役割分担
3月	植物の役に立つ生き物と害を及ぼす生き物、食べられる植物	学校で発生するゴミ	学校で発生するゴミ
	売れるゴミ	売れるゴミ	売れるゴミ
4月	資源ゴミを売れる場所	資源ゴミを売れる場所	資源ゴミを売れる場所
	土で育つ植物・水で育つ植物、食品の原料となる植物	トイレ	トイレ
5月	根を食べられる植物、植物の生育に必要なもの	トイレの必要な場所	トイレの必要な場所

3・4年生 (秋学期)	
10月 第1回目	川の水の汚染と水の節約
10月 第2回目	さまざまな環境汚染についての絵画活動
11月 第1回目	簡易排水処理槽の仕組みについての学習・実験
11月 第2回目	簡易排水処理槽の仕組みについての学習・実験

② フーロック郡ヴィンミー村ラムモンクアン中学校での環境学習活動

6年生(中学1年生)の希望する生徒21名で、課外授業での環境クラブ活動を行いました。また、秋からの新学期は、進級した新7年生19名に加え、7人の新6年生が増え、とても賑やかになりました。環境テキストを使って、地域の小川や池、井戸の水質調査や、井戸の水質浄化の調査など、郊外活動も実施しました。



生ゴミを集めてコンポストで堆肥をつくります

実施日	6年生環境活動クラブ活動内容
1月21日	川の水の汚染と水の節約
2月11日	「ベトナムにおける家の改築・解体時の建築資材の再利用について」の調べ学習
2月18日	地域の小川・池や井戸の水質調査結果のまとめ、ワークショップの役割分担
3月11日	校外活動：地域の井戸の水質浄化についての調査
3月25日	「学校で発生するゴミ」についての考察・絵画
4月8日	「資源ゴミを売れる場所」についての考察・絵画
4月22日	「トイレ」についての考察・絵画
5月6日	学校の校庭の地図作り
6月3日	ツル性植物栽培のための支柱作り・土作り、学校の校庭の模型作り
6月7日	ツル性植物の苗植え、水やり当番の決定
6月10日	ツル性植物の成長観察記録表作り、学校の校庭の模型作り
6月17日	コンポスト作り、学校の校庭の樹木の高さ・幹周囲の測定
6月24日	樹木の高さ・幹周囲の測定、木のCO ₂ 吸収量を計算する式の表を作成
7月1日	ツル性植物の苗追加、観察記録のまとめ、コンポスト作り、CO ₂ 吸収量計算結果
7月8日	CO ₂ 吸収量計算結果のまとめ、学校の生徒の呼吸から出るCO ₂ 量との比較
7月16・18日	(株)LIXILと協働の環境ワークショップに参加
7月29日	環境ワークショップ感想文作成
8月5日	地域の中の好きな場所、ライムを使った発電についての実験

	授業内容	
	6年生環境活動クラブ	7年生環境活動クラブ
9月19日	7年生のクラブのこれまでの活動の紹介	電気の節約：家中の電気製品について
10月3日	環境問題全般についての学習と作画	電気の節約：家の模型作り
10月17日	水と私たちの生活について	電気の節約：家の模型作り
10月31日	水の循環について	電気の節約：家の模型作り
11月28日	生活で水を使う場面のクレイアニメ作り	電気の節約：家の模型作り
12月12日	生活で水を使う場面のクレイアニメ作り	電気の節約：家の模型作り

③ 環境ワークショップの実施 【資金: (株)LIXIL】

冬休みの2月20日、21日の2日間、LIXILの社員5名がトゥイスワン小学校、ラムモンクアン中学校を訪問し、簡易ろ過装置の実験や会社の環境への取り組みの紹介を行いました。子どもたちからは、環境活動クラブの報告や簡易ろ過装置を使っでの授業を行い、環境への理解を深めました。

夏休みの7月15日～18日の4日間、希望する児童を募って環境グループを立ち上げ、身近な地域を拠点に環境学習活動を行いました。小学校2～5年生に加え、ラムモンクアン中学校6年生、

フォンロン地区環境クラブの子どもたちが参加をしました。地域の地図作り、好きな場所の紹介など、自分たちの住んでいる地域への理解を深める活動の学習成果を発表し、LIXILの社員皆さんとの活動では、フエ市内や自分たちの家、学校のトイレについて調べ学習を行いました。また、活動の最終日にはLIXILダナン工場に子どもたちをご招待頂き、生き生きと働く工場の皆さんや近代的な設備にとっても刺激を受けた様子でした。



夏的环境教育では、ダナン工場へ子どもたちをご招待頂きました
工場でお仕事に丁寧な説明を頂き、夢ふくらむ時間となりました

2 生活改善事業

【資金: エコポイント、Ready For、輝けアジアの子ども基金】

① 生活排水簡易浄化槽の設置

トゥイスワン地区のレストラン排水が小川に流れ込み、悪臭の原因となっていたので、簡易浄化槽を設置して汚染の軽減を図りました。

② 井戸水用ろ過装置の設置

フーロック郡ヴィンミー村とその周辺地域の井戸の水質が問題となっていたため、BAJミャンマーの鉄分除去のろ過装置を参考に設置したところ、鉄分含有量が大幅に改善されました。環境クラブの子どもたちもお手伝いをしながら、合計10か所の世帯に設置しました。



浄化槽設置の工事

3 バイogasダイジェスターの設置と農畜産業経営強化支援事業

【資金:地球環境基金、JICA草の根資金協力】

① バイogasダイジェスター(以下BD)の設置

トゥイスワン地区の家畜飼育農家8世帯を対象にBDを設置しました。うち1世帯はBD設置農家グループの積み立てファンドから補助し、7世帯は地球環境基金の資金から補助しました。これまでの3年間で37基を設置し、5月からスタートしたJICA資金ではさらに5基設置しました。設置農家によるバイオグループは、情報交換やさまざまな活動で協力して行っています。

② 行政との連携

各地区の家畜飼育農家の調査や候補農家の選出について、フエ市経済部や地区行政関係者と合同で実施し、行政職員の研修も兼ねて進めました。

2014年に実施したBD利用法のセミナーや農家グループの会合は以下の通りです。

開催日	参加者
●農家グループ新規メンバー加入に関する会合	
8月9日	新規BD設置補助農家2世帯、農家グループ1名、フエ市経済部2名、トゥィエウ地区人民委員会1名、BAJ5名
9月15日	新規BD設置補助農家3世帯、農家グループ2名、フエ市経済部1名、BAJ4名
●BD利用方法についてのセミナー・事例視察会 / 液肥利用や飼育技術について交流会	
8月11日	新規BD設置補助農家2世帯、BD設置希望農家3世帯、農家グループ5名、BD技術者1名、BAJ5名
9月17日	新規BD設置補助農家3世帯、農家グループ6名、BD技術者1名、BAJ4名
●生計向上事例ミーティング	
11月29日	BD設置補助農家5世帯、農家グループ10名、BD技術者1名、BAJ5名
●定期ミーティング(BDファンド情報シェア)	
11月20日	BD設置補助農家5世帯、フエ市経済部1名、BAJ5名



バイオグループ農家も協力してBDを設置します

4 農畜産物の販路促進

① ザボンフェスティバルへの参加

8月30～31日にトゥィエウ地区でザボンフェスティバルが開催され、バイオグループを中心にブースを確保し12世帯が共同で出店しました。野菜や果物など生鮮食品、加工食品、食事を提供しました。その結果2日間で約12万円を売り上げ、直売所への関心が高まりました。



地域特産のザボンがたくさん売れました

② 専門家の派遣

10月7～11日、農畜産物販売促進専門家として岸田芳朗氏(岡山商科大学)をベトナムに派遣し、セミナーや市場調査、農家調査を実施しました。日本の農産物直売所の事例紹介などを行い、農家グループ参加者との意見交換や、直売所へのアドバイスをいただき、参考にしました。

③ 直売所の開設

10月、直売所の開設に向け、フエ市人民委員会、フエ市国際交流センター、フエ省外務局の職員を対象に、安全な農畜産物についてのアンケート調査を行い、その結果をもとに店舗物件を探しました。その結果、勤労者がよく利用する市場のそばに直売所設置を決めました。

バイオグループと相談しながら、12月27日に直売所をオープンしました。朝8時～夕方6時半まで毎日営業し、野菜、穀物、肉、卵、農畜産加工品、惣菜の販売を行っています。



国内活動事業

東京本部の活動

日本の国際協力の新方針として、2015年2月10日、「開発協力大綱」が閣議決定されました。外務省がODA大綱の見直しを発表した2014年3月から、NGO側で組織した「ODA大綱見直し円卓会議」は政府の有識者懇談会に対し、さまざまな機会をとらえて見直しの進め方や政府原案に対しての意見を申し入れてきました。

新大綱では、「非軍事原則の徹底」と「貧困解消と質の高い成長」の実現が強調されています。前者では今回初めて相手国軍への支援を認めたことや、後者では経済成長が課題のように受け取れますが、現実には市場経済では救えない貧困層に対し、教育や保健医療など基礎的な社会サービスの提供や、富の再分配を実現できる強いシステムの構築支援などが課題となっています。今後はODAの運用状況を見守ることと、被援助国の市民組織との連携を強くしていく必要があります。

2014年のBAJ東京本部は、組織内部の課題解決として人員体制や内部監査、意思決定システムなどを検討してきました。また規程類の内容一新、新人事システムの導入などは、今後時間をかけて進めていきます。

I 資金調達

1 助成金や補助金、寄付・会費など

事業資金の調達は東京事務所の大きな仕事です。ラカイン州で進む学校校舎建設事業では、2年次～3年次(約1億6500万円)と順調に建設を進めています。しかしマウンドーで進めている帰還民再定住の活動である「技術研修とインフラ整備」は予算を大幅に削減されています。カレン州パアンの技術訓練学校は、2年次の申請に時間がかかり、やむを得ず自己資金投入でつなぎました。中央乾燥地の「生活用水事業」は第9期に入り、2014年は古井戸の修繕に力を入れました。

2014年にご支援いただいた団体様は右記の通りです。



かわいい手づくり石けんできました
ベトナムの子どもたちへ配りました

指定された寄付先の金額は以下の通りでした。

	会費・BAJ寄付・まるごと	ミャンマー	ベトナム	合計
金額	4,559,094	20,210,526	3,724,512	28,494,132

事業	機関・団体名
ミャンマー	外務省NGO連携無償資金協力、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、渡部隆夫、国際航業(株)、(特非)パブリックリソースセンター、プラン・インターナショナル、WAVE、ヤフー(株)、三菱商事(株)、(株)ロイヤルマーケティング、日本財団
ベトナム	JICA草の根技術協力事業(パートナー型)、(株)INAX/LIXIL、JANIC、(社)環境パートナーシップ会議、(有)片山技研、(株)LIXIL、環境アリーナ研究機構、(特非)パブリックリソースセンター、キャノン(株)、(株)エイチ・アイ・エス、輝けアジアの子ども基金
一般	(株)ポリグルインターナショナル、東京ライオンズクラブ、(有)いどシール、日航物産(株)、国際興業(株)、ワタベウェディング(株)、(株)大木組、(株)ピース・イン・ツアー、岐阜長良川ロータリークラブ、WAVE、(株)ピロタス、(株)ダイナックス、(特非)ケアセンターやわらぎ、(株)エヌエルシー、(株)ソーワコンサルタント、(有)峰秀興業、ブリッジャーズ(有)、キャピタル工業(株)、(株)日本開発サービス、ゆたかこどもえん、ブックオフコーポレーション(株)、横浜国際フェスタプロジェクト、(株)セプテーニ・ベンチャーズ、(社)シャンティール国際ボランティア会、立教大学

2 募金キャンペーン

2013年～2014年にかけて募金キャンペーンを実施しました。夏・冬募金に加え、現地からの要請に合わせて計5回の募金を実施し、皆様からのご支援をいただきました。

事業	期間	金額(円)
世界の子どもにお年玉を(冬募金)	2013年12月1日～2015年2月末	383,500
ミャンマーチン州の村の小学校再建募金	2014年2月～10月	715,000
新学期募金 キャンペーン(夏・秋募金)	2014年9月1日～10月末	123,500
まるごとサポーター 獲得キャンペーン	2014年6月1日～8月末	3名 36,000/年
パアン技術訓練学校 グラントオープン記念募金	2014年12月1日～2015年2月末	146,200

3 東京事業

① フルクルとHAPPY BOOK

東京事務所維持のためにも管理費の確保は課題です。東京事務所では2011年から日光物産(株)のご協力により、古着回収プログラム「フルクル」を開始しています。個人や企業のリピーターも増え、駅ビル型ショッピングセンターやデパートでの古着回収イベントも定着してきました。楽天オークションゆうパックの送料割安サービスの利用者も増えています。

2014年のBAJ倉庫受け取り分の箱数は9,120個で67,713kg、

寄付金額は646,497円でした。

2013年末から開始したHAPPY BOOKは、不要になった本やDVDなどを買い取ったブックオフからその収益金がBAJに還元される仕組みで、BAJのホームページから申し込みます。現在利用者がまだ少ないのが実情なので、これから広報に力を入れます。2014年は約8万円の実績がありました。

② 小さな図書室プロジェクト

BAJ設立20周年の記念事業として、皆様からのご支援で子ども向けの本250冊と本棚をミャンマーの小学校に贈るプロジェクトを進めました。その結果ミャンマーの中央乾燥地域の小学校11校に本と本棚のセットを寄贈することができました。この事業については、学校側からの要望が多くBAJに届いています。2015年は引き続き東京おもちゃ美術館と協働で、本におもちゃを加えた「Book & Toy」の事業を開始する計画です。

③ 「アジアの未来への展望」NGO 協議会

2012年に実施したトヨタ隣人プログラムの成果としてBAJは冊子『未来への提言』をまとめました。その延長で、このプログラムに参加したNGO団体により表題の協議会が結成され、国際協力にもっと関心を持ってもらおうと「水」「地域」「パートナーシップ」のテーマでそれぞれ、活動を進めました。このたび、その成果を『アジアの共生社会を紡ぐ〜日本の国際協力NGO〜私たちが訴えたいこと、共有したいこと〜』として冊子にまとめました。内容は右記のリンクでご覧いただけます。



WAVEと、日本外国語専門学校の皆さんが、ミャンマータナピオン村へ図書室を贈るため、フリーマーケットを開催しました



ブックレット関連 WEBサイトリンク先

ブックレット「アジアの共生社会を紡ぐ 日本の国際協力NGO」
「アジアの未来への展望」NGO協議会 ▶ <http://www.janic.org/asiamirai/>

ブックレットのダウンロード ▶ <http://www.janic.org/asiamirai/booklet.html>

活動動画および
その他活動記録・成果物のご紹介 ▶ <http://www.janic.org/asiamirai/movie.html>

II 広報活動



第4回のBAJ通信発送作業の様子、ボランティアさん、ありがとうございました

1 情報の発信

① BAJ通信・BAJメールマガジン

ご支援いただく方とBAJの活動現場をつなぐ機関紙「BAJ通信」は大切な情報誌です。年4回発行して事業の進捗や現地の様子などを支援者に報告しました。

BAJメールマガジンを月2回程度発行し、現地駐在員からの報告とともに、東京事務所が行う報告会やイベントなどをお知らせしました。毎号2,400部発行しました。

② 主催した報告会・イベント、 他団体主催のイベントや依頼された講演

以下の報告会やイベントを主催、ないし参加・出展しました。

	月日	内容	担当	場所
1	2月2日	講演「BAJミャンマーでの活動」	根本	ユネスコ協会連絡協議会
2	2月4日	トヨタ隣人プログラム報告会 「未来への提言」	根本	新宿三井ビル
3	2月11日	カレン州バアンBAJ技術訓練 学校開校式	根本・職員	ミャンマーカレン州バアン
4	2月14日	ラカイン州学校引き渡し式	根本・職員	ラカイン州ミャウー
5	3月22日	講演「ミャンマーのBAJ活動」	根本	アジア文化会館
6	4月12日	グローバルインタナショナル・ラスト フェスティバル	石川・大和田	JICA地球ひろば
7	4月17日	UNDPシンポジウム「ミャンマー 持続可能な成長に向けて」	根本	JICA市ヶ谷
8	5月22日	フェアトレードフェスティバル	押村・笠原	3×3ラボ
9	7月17日	三菱商事バザー	関口・松口	三菱商事棟
10	8月29日	BAJミャンマー報告会 「水供給事業」	新石・吉岡	地球環境パートナーシップ プラザ
11	10月1日	ミャンマー MGW 「水供給事業ワークショップ」	根本・職員	ミャンマー・シトウェ
12	10月10日	東洋大学シンポジウム国際開発 と内発的発展	森	東洋大学白山キャンパス
13	10月14・15日	国際協力グローバル・フェスタ	押村・重松	東京日比谷公園
14	10月18・19日	ミャンマー祭・レセプション	根本・職員	芝増上寺境内
15		おもちゃ祭(東京おもちゃ美術館)	押村・重松	東京おもちゃ美術館
16	10月26日	バンコク 「PDAシンポジウム・研修報告」	関口	バンコクPDA
17	11月20日	BAJ事業説明会(高知商業生徒)	関口	BAJ東京事務所
18	12月13日	BAJ講演会「ミャンマーの課題」	田辺寿夫氏	渋谷区勤労福祉会館
19	12月15日	BAJベトナム活動説明会 (宇都宮大学学生)	根本	BAJ東京事務所



三菱商事(株)が行う夏のバザー



新宿御苑で実施された「森の美術館」



ミャンマーの張り子を売るボランティアさん

③ NGOの委員会やネットワーク

行政組織、国際機関、NGO/NPOの連合体が実施する会合に積極的に参加して情報共有と意見交換を行いました2014年に参加した主な団体は以下の通りです。

	ネットワーク	担当	場所
1	NGOと企業の連携推進ネットワーク	関口	企業のCSR部門との意見交換会
2	JANIC / 国際協力NGOセンター	根本	NGO連合体の情報共有
3	JPF / NGOユニット全体会議	瀬川・今村	JPF加盟団体の意見交換会
4	JPF / ミャンマーワーキンググループ	瀬川・今村	JPFミャンマー算入団体の情報共有
5	バイオメディカルサイエンス研究会	根本	ベトナムでの保健衛生関連の活動情報
6	ODA大綱見直しに関するNGO円卓会議	根本	NGO連合体によるアドボカシー
7	動く → 動かす	根本・今村	NGO団体によるアドボカシーとキャンペーン
8	NGO外務省定期協議会	瀬川・今村	NGOと外務省の情報共有テーブル
9	NGO-JICA協議会	瀬川・今村	JICAと外務省野情報共有テーブル
10	やわらぎ・にんじん評議会	根本	高齢者事業対象の意見交換
11	アジア未来展望NGO協議会	根本・押村	トヨタ隣人プログラム参加団体による勉強会
12	J-FUN	瀬川	NGOとUNHCRのテーブル
13	ファンディング協会	関口	資金調達に関するセミナーなど

④ ボランティアやインターンの受入れ

BAJ通信の発送準備やパソコンへの入力など、ボランティアの力を大いに発揮していただきました。BAJの活動紹介と簡単な作業でBAJへの関心を持っていただく「BAJカフェ」は、2014年は9回実施し、延べ70名の方が参加しました。その他に、曜日や時間を決めてボランティアをしていただく方もおられます。

目標と期間を決めて働くインターンについて、2014年は以下の方々を受け入れました。(敬称略)

	氏名	所属・仕事	期間
1	大和田 匠	BAJ国内インターン 国内事業	2月14日～5月13日
2	平井 満智	ドット・ジェイビー派遣 国内事業	2月18日～3月31日
3	志賀 美咲	ドット・ジェイビー派遣 国内事業	2月10日～3月31日
4	重松 藍	BAJ国内インターン 国内・海外事業	8月18日～2015年1月末
5	谷本 友香	立教大学インターンシッププログラム 国内事業	8月18日～9月4日
6	吉崎 明日香	立教大学インターンシッププログラム 国内事業	8月18日～9月4日
7	太田 憲人	BAJ国内インターン 国内事業	10月27日～12月末

2 海外の活動現地視察

ミャンマーとベトナムのBAJ活動現地について、視察を希望する申し出があった場合、要望に応じて視察の日程や手配などを行いました。2014年の視察受け入れは以下の通りでした。

	視察先	内容	期間
1	ベトナム・フエ市農村観光試行	バイオ農家グループを中心にBAJ 会員3名が農家体験ツアーを試行。	2月13日～18日
2	ミャンマー・中央乾燥地域のBAJ 水供給事業視察	東洋大学地域学研究科の教員4名が、水質浄化のニーズ調査などを実施した。	2月6日～14日
3	ミャンマー・中央乾燥地域のBAJ 水供給事業視察	東洋大学地域学研究科の学生10名と教員4名が、引き続き村落を視察した。	8月7日～15日
4	ミャンマー・中央乾燥地域のBAJ 水供給事業地とヤンゴン視察	東京おもちゃ美術館3名が、伝統工芸やBAJ水供給事業地を視察。	10月27日～31日



理事会で海外駐在も帰国して報告します

Ⅲ 海外事業支援

1 資機材の調達

BAJの海外現地からの要請により、必要な物資の調達を行っています。海外のサプライヤーとの連絡や輸出手続きなどのほかに、技術訓練学校で必要な教科書やマニュアルなどの購入も行いました。

2 専門家派遣

現地の必要に応じて、国内の専門家を探して現地へ派遣し、アドバイスや指導をお願いしました。

パアンの技術訓練学校、マウンダーの車両整備など専門性を要求される事業が増えており、技術者を派遣するNISVAなどの団体と連携をとって進めています。

2014年に派遣した専門家は右記の通りです。(敬称略)

氏名	派遣先	所属・仕事	期間
平山 祐介	ラカイン州シトウエ事務所	車両整備技術指導	3月22日～31日
眞内 敏行	カレン州パアン技術訓練学校	建設技術指導	7月18日～12月17日
関 秀馬	ラカイン州マウンダー事務所	車両整備で電子制御装置指導	8月8日～12月7日
筒井 哲朗	ラカイン州事業所	事業運営指導	10月1日～13日
岸田 芳朗	ベトナム・フエ事業視察	直売所・観光などの指導	10月7日～12日
安藤 祥二	カレン州パアン技術訓練学校	車両整備・カリキュラム指導	12月21日～1月4日

2014年会計報告

活動計算書 (自2014年1月1日～至2014年12月31日)

【経常収益】

		(単位：円)	
1. 受取会費(注1)		1,420,000	1,420,000
2. 受取寄付(注2)		22,425,503	22,425,503
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	165,092,341	378,929,737
	受取補助金(注3)	213,837,396	
4. 事業収益		8,840,774	8,840,774
5. その他収益		5,916,524	5,916,524
経常収益計(A)			417,532,538

注1 受取会費内訳		(単位：円)
個人会費		1,060,000
団体会費		360,000
受取会費計		1,420,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳		(単位：円)
BAJ一般		3,924,747
まるごとサポーター		1,816,000
ミャンマー		178,476,961
ベトナム		2,194,136
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)		1,106,000
受取寄付・受取助成金計		187,517,844

※主な寄付先は「国内活動報告1 認定NPOと資金の調達(1)資金調達」にある表をご参照ください。

【経常費用】

		(単位：円)	
1. 事業費	人件費	100,893,737	381,845,518
	その他経費	280,951,781	
2. 管理費	人件費	7,472,414	15,757,603
	その他経費	8,285,189	
経常費用計(B)			397,603,121

注3 受取補助金内訳 (単位：円)

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	
・ミャンマー/ラカイン州における技術研修とインフラストラクチャー整備	48,379,896
・ミャンマー/ラカイン州における車両等機械類の修理・整備	17,388,932
・ミャンマー/南東地域における新規給水施設建設、既存の給水施設の修繕	43,023,869
独立行政法人環境再生保全機構	
・ベトナム/フエ市における小規模農家を対象としたバイオガスタイジェスター普及	1,768,482
国際協力機構	
・ベトナム/フエ市零細農家向け農畜産業経営強化支援	6,345,606
外務省	
・ミャンマー/中央乾燥地マグウェ地域における生活用水供給	40,607,366
・ミャンマー/カレン州/バアン市における職業訓練学校運営	54,767,971
・NGO海外スタディ・プログラム	952,258
・NGOインターン・プログラム	603,016
受取補助金計	213,837,396

当期正味財産増減額(A)-(B)	19,929,417
前期繰越正味財産額(C)	55,000,366
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)	74,929,783

事業別損益の状況

科目	ミャンマー						国内事業	事業部門合計	管理部門	合計
	ラカイン州北部地域開発事業	ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発	中央乾燥地域における生活用水供給事業	南東国境事業	カレン州バアン事業	ベトナム事業				
I 経常収益										
1受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,420,000	1,420,000
2受取寄付金	3,634,460	1,920,222	7,971,057	537,782	954,291	1,666,944	0	16,684,756	5,740,746	22,425,503
3受取助成金等										
受取助成金	0	153,622,247	9,836,902	0	0	1,633,192	0	165,092,341	0	165,092,341
受取補助金	65,768,828	0	40,607,366	43,023,869	54,767,971	8,114,088	0	212,282,122	1,555,274	213,837,396
4事業収益	4,752,670	674,254	253,222	188,833	241,548	233,800	975,080	7,319,407	1,521,366	8,840,774
5為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	5,765,294	5,765,294
6その他収益	0	0	0	0	0	0	30,266	30,266	120,964	151,230
経常収益計	74,155,958	156,216,724	58,668,547	43,750,485	55,963,810	11,678,290	975,080	401,408,894	16,123,644	417,532,538
II 経常費用										
(1)人件費										
給与手当	25,830,883	29,467,780	16,208,176	7,948,146	16,708,199	3,321,868	1,408,685	100,893,737	1,861,493	102,755,230
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	4,924,921	4,924,921
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	0	686,000	686,000
人件費計	25,830,883	29,467,780	16,208,176	7,948,146	16,708,199	3,321,868	1,408,685	100,893,737	7,472,414	108,366,151
(2)その他経費										
資機材費	26,043,487	105,727,752	32,715,437	20,699,261	25,926,687	4,741,278	7,845	215,861,747	0	215,861,748
広報印刷費	0	0	0	0	103,258	-7,050	1,391,980	1,488,188	114,608	1,602,796
旅費交通費	1,594,020	4,152,987	1,775,768	2,935,148	1,848,056	2,047,408	170	14,353,557	1,784,160	16,137,717
通信運搬費	1,161,747	986,882	814,978	427,879	492,535	96,495	176,708	4,157,224	315,205	4,472,429
消耗品費	1,176,195	1,372,591	734,249	655,722	1,034,759	277,304	26,859	5,277,679	1,425,753	6,703,431
修繕費	4,259,424	6,698,018	4,042,956	4,901,863	4,088,015	0	0	23,990,276	0	23,990,276
賃借料	0	4,345,229	2,177,942	3,370,406	1,214,703	308,578	0	11,416,858	683,395	12,100,253
減価償却費	0	0	154,221	0	0	0	0	154,221	0	154,221
保険料	786,063	607,791	302,644	426,985	389,523	17,780	0	2,530,786	1,158,234	3,689,020
調査研究・研修費	26,791	51,963	24,318	2,977	133,747	138,285	0	378,081	61,264	439,345
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	467,312	467,312
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	20,600	20,600
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	98,100	98,100
支払手数料	56,949	190,876	71,245	33,966	52,207	2,327	2,619	410,189	530,308	940,497
雑費	238,679	70,923	119,980	4,959	476,878	21,340	216	932,975	1,626,250	2,559,225
その他経費計	35,343,356	124,205,012	42,933,738	33,459,166	35,760,367	7,643,745	1,606,397	280,951,781	8,285,189	289,236,970
経常費用計	61,174,239	153,672,792	59,141,914	41,407,312	52,468,566	10,965,613	3,015,082	381,845,518	15,757,603	397,603,121
当期経常増減額	12,981,719	2,543,931	-473,367	2,343,173	3,495,244	712,677	-2,040,002	19,563,375	366,041	19,929,417

貸借対照表 (2014年12月31日現在)

【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	585,563	223,356,874
		流動性預貯金	147,371,635	
		ミャンマー現預金	69,217,952	
		ベトナム現預金	4,815,902	
	流動資産	立替金	16,500	
		未収入金	36	
		前払金	65,570	
		仮払金	52,211	
固定資産	有形固定資産	機械装置	1,231,505	462,667
	投資その他の資産	敷金	462,667	
			0	
資産合計				223,819,541

【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払法人税	98,100	145,068,943
	その他未払金	932,633	
	前受会費	50,000	
	前受寄付金	3,750,000	
	前受助成金	111,288,065	
	前受補助金	24,208,646	
	その他前受金	3,010,630	
	預り金	994,551	
固定負債	退職給付引当金	3,820,815	3,820,815
負債合計			148,889,758

【正味財産の部】

(単位：円)

前期繰越正味財産	55,000,366
当期正味財産増減額	19,929,417
正味財産合計	74,929,783
負債及び正味財産合計	223,819,541



財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 用途等が制約された寄附金等の内訳

(単位：円)

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	期末残高	備考	前受補助金/助成金及び未収入助成金・事業期間
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州における技術研修とインフラ整備	0	48,792,062	46,931,523	0	1,860,539	2014/1/1 ~ 2015/3/31
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州における車両等機械類の修理・整備	0	17,208,472	16,333,820	0	874,652	2014/1/1 ~ 2014/12/31
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・南東地域における新規給水施設建設、既存の給水施設の修繕	0	43,708,229	39,852,225	0	3,856,004	2014/1/1 ~ 2014/12/31
外務省/ミャンマー中央乾燥地マダグエ地域における生活用水供給事業	0	58,116,912	40,607,366	0	17,509,546	2014/3/21 ~ 2015/3/20
外務省/ミャンマー・カレン州/バン市における職業訓練学校運営事業	54,875,876	0	54,767,971	0	107,905	2013/12/1 ~ 2014/11/30
独立行政法人環境再生保全機構/ベトナム・フエ市における小規模農家を対象としたバイオガスタージェスター普及事業	0	1,768,482	1,768,482	0	0	2013/4/1 ~ 2014/3/31
独立行政法人国際協力機構/ベトナム・フエ市等細農家向け農畜産業経営強化支援事業	0	6,345,606	6,345,606	0	0	2014/5/1 ~ 2019/4/30
株式会社LIXIL/ベトナムにおける環境教育	899,532	1,500,000	2,008,192	0	391,340	2013/4/1 ~ 2014/3/31 2014/4/1 ~ 2015/3/31
渡部隆夫/ミャンマー・中央乾燥地域における生活用水供給事業	0	5,000,000	1,250,000	0	3,750,000	2014/1/1 ~ 2014/6/30
日本財団/ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発事業	98,269,380	166,058,600	153,622,247	0	110,705,733	2013/9/1 ~ 2014/8/31 2014/9/1 ~ 2015/8/31
プラン・ジャパン/中央乾燥地域生活用水供給事業	0	9,837,095	9,837,095	0	0	2014/1/1 ~ 2014/6/30
ジャパン・プラットフォーム(JPF)/岩手県大船渡市の仮設住宅等に住民被災者を対象とした多目的コミュニティセンターの運営と米食/パンスのとれた食事の調理・配給	190922	0	0	0	190,922	2012/2/11 ~ 2012/10/12
外務省/海外スタディプログラム 外務省/インターンプログラム	127,742	1,427,532	1,555,274	0	0	2013/12/14 ~ 2014/3/9 2014/6/1 ~ 2014/9/30

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科目	財務諸表に計上された金額	うち役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取会費	1,420,000	70,000
受取寄付金	22,425,503	704,246
管理費 賃借料	12,100,253	480,000
合計	35,945,756	1,254,246

(単位：円)

4. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価格	取得	減少	期末取得価格	減価償却累積額	期末帳簿価格
(有形固定資産) 機械装置・井戸掘削機	15,422,173	0	0	15,422,173	14,959,506	462,667

(単位：円)



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

